

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400947		
法人名	社会福祉法人 天恵会		
事業所名	グループホーム ありあけの丘		
所在地	熊本県玉名市天水町部田見448-1		
自己評価作成日	平成27年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、小高い山の中腹にあり環境がよく、建物の前が芝生の広場となっているため、馴染みの景色がいつでも見ることができます。また、季節の花々が咲き、芝生広場は散歩コースとしても最適です。
 ・共に暮らす家として、明るく楽しい雰囲気があり、飼い犬も家族の一員として暮らしています。
 ・日々の生活の中で、できることをみつけ役割(仕事)を持ち、生きがいのある生活を送っていただくように支援しています。車椅子は移動の為に道具である為、リビングでは椅子に座りくつろいでいただきます。動きだしはご本人の思いに沿って、ご本人の心の動きに合わせて職員は「待つ」支援の姿勢を大切にしています。
 ・認知症対応型通所介護を開設し、入居者と通所利用者のコミュニケーションは良好で馴染みの関係ができています。隣接する特養やデイサービスは、近所つきあいのように行き来し、交流ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘の上に、特養「有明ホーム」に隣接してグループホーム「ありあけの丘」がある。医療面、防災面、各種行事やイベント等は、法人との協力体制が整っているとともに、ホーム運営は独自の自主性が重んじられており、家庭的な雰囲気、利用者を中心とした暮らしが営まれている。管理者は、職員に対してホーム運営の基本である「理念」についてのアンケートを実施し、理念の理解と浸透を図っている。又、「私の暮らしの希望ノート」を作成し、利用者一人ひとりの思いや意向を詳細に把握して、利用者を支える努力をしており、その成果が利用者の笑顔と活力に表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に触れやすい場所に表示し、住民として暮らして頂けるように地認知症になっても、人としての尊厳を徹底して尊重している。理念を生活の場面で実践できるよう、職員間で共有していると思う。	「高齢者が、その人らしく生き甲斐のある心豊かな生活を送る為に、心のこもった質の高い支援を行い、地域福祉を向上させていく」ことを基本とする法人理念を根底に、ホームでは「心は丸く・気は長く・腹は立てず」の意識を持って、利用者のケアにあたっている。管理者は、理念について職員アンケートを実施し、結果を分析して全職員への理念の理解と浸透を図っており、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに買物に出かけています。地元農家の方が野菜の訪問販売に来て下さって、お茶を飲みながら気軽に話をして帰られる。また、地元で作られた味噌を配達して下さいます。毎年、地域の祭りに作品を展示し、また見学に出かけ懐かしい方々との会話を楽しまれている。	マラソン大会の応援や、福祉祭りの展示コーナーに利用者の作品を出品して一緒に見学に出かけたり、地元の農家から野菜の移動販売を受け入れるなど、地域との交流が図られている。又、管理者が地域のキャラバンメイト会員であり、認知症サポーター養成講座の講師を務める事で地域とつながり、ホームへの理解も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たまな認知症応援団の活動に参加し、認知症サポーター養成講座のお手伝いや天水地区のキャラバンメイトの育成の一助をなしている。また、地元中学校の福祉体験学習を受入れ、認知症の人の理解と支援について、学びの機会を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月に1度活動状況の報告を行い、出席者からのご意見や情報交換を行い、地域とのつながりを深め、今後のサービス向上に反映できるように努めている。今年度から認知症通所介護利用のご本人とご家族様にも参加の機会を得ている。	委員は、区長・民生委員・家族代表・行政・地域包括職員で構成され、2か月に一度開催されている。ホームから、入居者状況と活動内容が説明された後、委員からそれぞれの立場で意見交換が行われている。ホームからの、「地域との交流の機会を増やして地域に根ざした活動を計画していきたい」との意向に対し、委員から地区の球技大会・親子ふれあいの会・地区の総会に参加したらどうかとの提案が出される等、有意義な会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者・地域包括支援センターの方にも運営推進会議に参加して頂き、実情を把握して頂くとともに、ご意見を頂く関係性を構築し、センターからの相談に応じ、地域に暮らす認知症の人が安心して在宅生活が継続できるよう助言している。	市担当課からは、職員が交替で運営推進会議に出席しているので、職員に幅広くホームの現状への理解が得られている。地域包括支援センターからは、管理者に、地域の認知症に関する研修会の講師依頼があったり、利用対象者の情報提供がある等、積極的な交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状況を常に観察し、ご本人の思いを大切に、動きだしに合わせて寄り添い見守りを行っている。玄関の開閉は自由で、センサーやブザーもない。ペットの4点柵もない。	年2回、法人全体で「身体拘束について」の研修が開催されている。玄関の施錠や、センサーブザー等は無く、ベッド柵も使用しておらず、常に利用者に背を向けない事を意識したケアを心掛けている。利用者の動きを見逃さず職員同志の声掛けを徹底し、安全確保に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修会に参加し、高齢者虐待について学び知識を深めるよう努めている。また職員は情報を共有し、不適切な言動はその場で注意し合っており、言葉による虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修への参加を積極的に促し、理解を深めるよう職員間で話しています。ご家族からの相談には、担当課につなげるなど、出来る範囲で対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書の説明を行い、了承を得た上で契約して頂いている。また、制度改正や要介護度の変更による利用料の変更時には再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しています。また年に3回程度、行事を企画しご家族様と職員との交流ができる機会を設けている。食事をしながらゆっくりお話を伺い、不安や希望など日頃抱いておられる思いを傾聴し、職員は情報を共有し、支援に活かしている。	年3回の家族会の他に、敬老会・クリスマス忘年会等の行事にも家族の参加が増え、本人・家族・職員のコミュニケーションが図られて信頼関係が築かれている。車椅子利用者の家族からの、一緒に外出したいとの意向を受け止め、歩行訓練を強化し、排泄介助の方法等を伝え、外出が実現した事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝は申し送りと本体朝礼後の報告の2朝を行い、情報の共有を行っています。業務日誌の活用や気づきノートに基づく意見交換や短時間のランチミーティングなどを行い、提案を聴く機会を積極的につくっている。勉強会など、職員自ら考え、意見を発言できる機会を増やしている。	管理者は、職員がリビングでの活動をどうするか、壁にどんな掲示物を作るか、利用者が身体を動かし楽しめるアイデアや提案等について、自由に自主的に行うよう促している。それは、全体会議や利用者と一緒にランチタイム等に話し合わせ、実践に繋げている。又、「気づきノート」には個々の利用者の言動について細かな気づき書かれており、情報の共有化で、ケアの統一が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、何でも話せる関係であり、管理者は代表者に皆の思いを伝えるよう努めている。資格取得に向けての配慮や、職員が長く仕事が出来るように、お互いの勤務希望を出して希望に沿うように努めている。ノー残業デイの設定や労働時間内で帰れるように、お互いが協力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、母体で開催される施設全体の施設内研修会、必要に応じ施設外研修会にも職員交代で参加させている。業務中においても疑問に感じる事は、カンファレンス時に尋ねてもらい皆で勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	その人らしさを支えるネットワークの研修会に参加し、他事業所の取り組み状況を参考にしている。他施設を見学し、職員の交流を図ることができている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し面接を行い、ご本人の思いを傾聴し、ご本人の生活に合わせた支援を行う。認知症対応型通所介護をご利用中の方が入居につながる場合、在宅生活での習慣を継続できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に話せる雰囲気配慮し、申込みの際にご家族の不安や要望を時間をかけてお伺いし信頼関係を構築している。サービス導入時は、その内容に変化があるか、さらに新たな要望があるのかを事前に傾聴し、ご本人が望む生活の実現に向けて努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、ここでの支援を受けたと思われる理由を丁寧にお伺いしている。在宅生活が可能な場合、通所介護や小規模多機能等の介護保険事業所等のご紹介をしするなど、様々な支援を選ぶことができることを伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの主体はご本人であり、共に暮らす意識を持ちその人らしさを尊重した自立支援を行っている。ご本人ができることをみつけ、できない事をサポートする関係を構築している。ご本人が職員に気を遣い過ぎないよう、お互い様の声かけが頻繁に聞かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族様の意図を聴きながら、ご本人様との思いを理解して頂きよりよい関係が構築できるようにしている。衣替えなど、ご家族様にできることは協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には居室でゆっくりお茶を飲めるように雰囲気づくりをする。不在者投票に出かけ、地域の方と話しができる機会を大切にしている。	地域の福祉祭りや、マラソン大会の応援に出かけて、馴染みの人との出会いを大切にしている。又、家族からの外出・外泊申し出は快く受け入れ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士がお互いに話が弾む話題を提供したり、一つのテーブルを囲み輪を小さくする事で話が弾むように位置関係の工夫に努めている。なじみの関係になっても、トラブルが発生するような時は早目に対応をし、話相手のいない様な時は、職員が声掛けして孤独感を感じさせないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、お見舞いに行ったりご家族からの相談があった場合は、相談に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の些細な事から、ご本人の思いに気づくことができ、職員間で情報を共有して、ご本人の思いに沿った暮らしの支援ができるよう努めている。	管理者は、「私の暮らしの希望」という利用者個々の情報ノートを作成し、靴下を履くか履かないか、コーヒーにするか紅茶にするか、朝食は起床時間に合わせて自由に摂るとか、髪を切りたくない利用者は後ろで束ねて結ぶ等、日常の些細な思いや意向に添うケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やご本人の日々の暮らしの中で気付いたことなどを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日関わる中で、心身状態把握は申し送りで、情報の共有に努めている。気づきのノートを活用し、よりご本人の希望に沿った個別の生活が送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見や希望を聞き、スタッフ会議や申し送りなどで、でた意見を検討し、現状にあったケアができるようにしている。	ケアプランは、「気付きノート」や「申し送りノート」を基に家族の意向や希望も踏まえた上で作成し、6か月毎及び必要時に見直している。モニタリングは、3か月毎に実施し、ICF(国際生活機能分類)様式を用いて記録している。又、ケアプラン表にある「援助内容」の項については、別紙に「私がしてもらいたい事」として、食事や排せつ等の具体的な介助方法を示す事で、「今」に即した支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼・終礼で申し送りを行っている。日々の暮らしの様子は時間を追って記録を残している。また、介護計画書の内容は、カンファレンスの中で情報を共有し見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出外泊は急な申し出も受け入れている。、病院受診については、日頃の状況を把握している者が説明できるように、職員が同行している。法人全体の資源を活用した活動を行い、機能訓練などに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症の人の理解では特に選挙の際担当の役所の方に協力を頂いている。商店での買い物時ご本人ができるまで待つて下さる。地域の方が清掃活動に來所されるなど支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診の際は同行し、状況報告を行っている。また、異常の発見の際は本体特養医務と連携をとり、主治医の指示を受け対応している。往診時に緊急時の対応等を相談をし、ご家族ご本人の希望に沿った治療が受けられるよう代弁している。	利用者全員、法人の協力医療機関をかかりつけ医としている。長期入院にならないよう、転倒防止に努め、発熱や咳にも早期対応で予防に力を入れている。受診は、職員が付き添っているが、必要に応じて家族も協力し、利用者の健康管理が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は1名を母体施設の職員との提携で配置している。健康管理、観察は常に行い、異常の早期発見に努め、情報は共有し医療連携体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関への情報提供を十分に行っている。入院中の状態確認は、見舞いに行ったり、病院関係者に伺い、ご家族にその都度報告を行い、早期の退院になるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の希望を確認し、終末期に対するケアの方針をご家族や本人に説明し確認している。終末期の看取りは家族に付き添っていただくようにし、状態変化があった場合は、再度意向の確認を行い、かかりつけ医と母体看護部との協力体制を図り、入居者の状況に応じた対応を行っている。	入居時に「看取りに関する指針」の同意書を取り交わしており、早い段階で家族との信頼関係を築いておく事が重要と考えている。これまでに看取りの事例は一例であるが、利用者の最期をより良いものにするため、家族と協力し、かかりつけ医と密接に連携を図りながら、スタッフ全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年施設での研修会に救急蘇生法を取り入れており、応急手当普及員研修に参加し、参加した職員が全職員に看護師と共に指導し、周知させている。また必要に応じた対応の仕方も確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当事業所では、母体で年3回ある訓練に参加し、消防署の方より指導いただいている。また消防装置を設置している。定期的に消防設備の点検を行い、緊急時の対応がスムーズに出来るように全職員に周知している。毎月、母体での通報訓練にも参加している。	法人で、通報・消火・緊急搬送等の訓練が定期的に行われており、参加している。その内の一回は、消防の協力のもと夜間を実施され、緊張感、恐怖感が全く違う事を体感し、より実践的な訓練となっている。又、運営推進会議の場で消防職員から「グループホームでの火災事例」の講話をしてもらうなど、地域・家族・職員へ防災の意識づけも行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にかかげている個人の尊厳を大切にしている。さりげない言葉かけを心がけている。面会時は居室で行い、入浴は同性介助を行っている。	利用者の前で、職員間で利用者の話はしない事を徹底している。入浴は同性介助とし、トイレ・風呂場使用時は施錠し、羞恥心への配慮が見られた。又、居室は本人がいない場合でもノック3回を心掛け、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の主体性を大切にして、説明と同意後の支援をしている。職員の思いこみや決めつけでご本人のやりたいことができないことがないよう努めている。一人一人が決定できる機会を提供できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ、精神的な面や体調を考慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容時間を大切にしている。衣類を一緒に選ぶ、行事の際にはお化粧品を参加して頂いている。理美容はご家族と相談しながら、地域の美容師に來所して頂いている。希望者は髪を染める為、美容室に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂と台所が対面式になっており、食事の香りや音を感じていただき、職員と入居者が対話しながら準備が出来るようにしている。また食材の切り込みや下準備は、出来る事をお願いして手伝っていただいている。片づけはテーブル拭きや食器の下膳、洗いなど日課として家事活動が行われている。	リビングのテーブルを囲んで食事をする人、少し離れた所で一人で食事をする人等、それぞれ思い思いの場所で食事を摂っている。器も小鉢盛りの人や、仕切りのあるワンプレートを使用する人などがおり、本人が食べやすいように工夫されていた。又、施設周辺で採集できる筍・のびる・ヨモギ等の食材を使った料理で季節を楽しむ配慮もみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1ヶ月分の献立を作成し栄養バランスを考え皆で検討、母体の管理栄養士に目を通してもらいアドバイスを頂いている。水分摂取の少ない方は、水ゼリーや果物、汁物の野菜を多くする等の工夫で摂取を促し不足しないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。お一人ずつ自室に促し、洗面台にて行って頂く。義歯洗浄の方も同じく自室にて行って頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、記録の中から排泄パターンを掴み、一人ひとりトイレの誘導に努めている。タイミングが合わず失敗された場合、自尊心を傷つけない声かけと清拭やシャワー浴を行っている。	日中は、全員布パンツを使用しており、排泄記録で個々のパターンを把握し、定期的にトイレ誘導をしている。食事内容・水分補給・適度な運動のバランスを考慮したケアにより、自然排泄を促す事で、おむつ使用量も減り、家族にも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、冷たい牛乳を提供している。また、水分は一日1ℓ～1.5ℓを目標に摂取を促している。体操や散歩、歩行訓練やレクリエーションなどで、運動を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日の入浴、希望に沿った入浴時間を実施している。本人の希望や体調に合わせた時間をずらしたり、ゆっくり入っていただけるように支援している。また体調不良により入浴出来ない方は、清拭や衣類交換で対応している。	一日置きに希望の時間に、マンツーマンで一部介助をしながら入浴支援が行われている。入浴を好む利用者が多く、拒否は見られない。ゆず湯・しょうぶ湯等入浴を楽しむ支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣は、自室で30～1時間をめどに行っている。和室に布団を敷き、臥床される方もおられる。その都度ご本人の状況や体調や精神面に配慮して安心できる居場所の設定を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の服薬内容については理解しており、変更があった場合は、その都度伝達し誤薬のない様に名前を書いて個別の仕切りのついたトレイに入れている。変更事項などは業務日誌に情報として記録していつでも見直せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る役割を見極め、家事活動・創作活動・レクリエーション・脳活性化訓練として日々個人でできること・好みの物を行って頂いている。皆で歌を唄ったり、ゲームをしたり、犬との散歩、などそれぞれが楽しいと思えることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキに出て日光浴をしたり、食事をしたり、玄関アプローチで茶話会をしたり、ふれあい広場には遊歩道があり、まわりに桜やツツジなどの花が咲く為、季節を感じていただけるよ散歩している。また、畑仕事や花苗を植えるなど園芸活動を行っている。地域のマラソン大会や祭りの見学に出かけている。ご家族との買物や食事の機会が定期的にある。また、食材の買物に同行して頂いている。	施設周辺は敷地が広く、桃や桜の木が植えられており、目の前には芝生広場がある。近くにみかん山や神社もあり、散歩には最適の自然環境に恵まれている。利用者は、毎日飼い犬の小型犬とゆっくり、敷地内散歩を楽しんでいる。又、藤やしょうぶの花見、近くの展望公園へのドライブで海を眺める等、閉じこもらない外出支援が実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望でお預かりしているが、ご本人が所持できる機会はない。外出時、自分で支払い出来る方は、自分で品物を選び払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅へ電話したいと希望される時は電話発信し取り次いだり、かかってきた電話は本人へ取り次いでいる。手紙が届いた時は、代読したり自由に見れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節感を感じていただけるように季節の花など壁面を飾っている。出窓にも花やひな人形など季節を感じて話が弾むようにしたり、生花を生けて頂き、生活の中に潤いがもてる空間づくりをしている。行事の写真を掲示している。	玄関を入れてリビングに通じる廊下の壁には、利用者のぬり絵や、行事参加の写真が掲示されている。訪問時、リビングでは利用者が職員と共に歌やゲーム・体操等を実施しており、活気にあふれていた。参加しない人は、ソファでくつろぐ姿が見られ、個人の意思が尊重されている事が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関ポーチ、ウッドデッキには椅子やテーブルを設置し、気軽に外の空気に触れたり、一人になりたい時は廊下のソファで広場を眺めて過ごされるようにしている。ウッドデッキでは、茶話会・昼食など季節感を味わっていただく催しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を持参していただいている。家族の写真や手紙などを飾ったり、レクリエーションで作られた作品を飾っておられる。ご本人の状況に合わせて、ベット・タンスの位置に配慮している。	各居室入り口には、スーパーのトレイに千代紙を貼り、その人の好きな花や果物の名前を書いて、本人の部屋とわかる表示が施されている。窓から竹林・みかん畑等が眺められる部屋や、小物入れがきちんと並べられた部屋等があり、家族写真を、ベッドに寝ながら見られるよう、ベッド目線の高さに掲示する工夫も見られた。又、寝具は入居前から使っていた馴染みの物が持ち込まれており、居心地の良い居室づくりへの努力が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄の為の表示は大きく伸長に合わせて、高さを変えトイレ・便所などご本人のわかりやすい表記にしている。食堂や廊下には不要な物を置かず、転倒防止に努めている。		